団体名　フェーズフリーな防災企画チーム

「振り返り活動説明・左義長祭り 」

■活動の内容

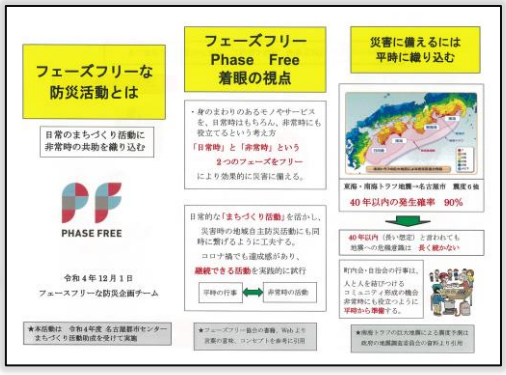
「日常のまちづくり活動に非常時の共助を織り込む活動」ということで、身の回りにあるモノやサービスを日常だけでなく、非常時にも役立てるという考え方を実践、より効果的に災害に備えることを啓蒙する活動をされています。
今回は「左義長祭り」に訪問し、扇川沿いの現状、また今年度の活動の振り返りについて、代表の井上様よりお話を伺いました。

□日時　令和５年１月１４日（土）
□場所　鳴海駅周辺（緑区鳴海学区）
□参加　１３名程度

【扇川沿い
高低差のある地形】

【LPガス発電機】

鳴海駅の傍らを流れる扇川。過去に２度大きな水害をもたらし、自主防災に対する意識の高い土壌があるにも関わらず、行政任せな状態を「自分の地域は自分達で守ろう！」と地道な取り組みをされています。 考え方の核は【フェーズフリー】。平時で利用している物を災害時には別な形で有効活用するというものです。今回は具体的な事例として、「ＬＰガスの発電機」の利用についてお話を伺いました。平時においては、LP発電機を扇川や子どもたちの集う児童公園の草刈り活動時に利用。これまでは、長いコードリールを使用し遠くから電源を引いて行わなくてはならなかった草刈りが、このＬＰガス発電機で楽に行えるようになったということ。そして、いざという時は非常用電源、炊き出し用の熱源として活用されるとのことです。また、地域住民への啓蒙として、扇川の水位をスマホで確認できることを紹介したり、冊子を作成し、町内会行事で配布されているそうです。草刈りに加えゴミ拾いなど最初はほんの数名の取組みが、公園の利用者（特に子供たち）に喜ばれ、大きな充実感を感じると共に、住民のこの活動への理解の深まりにつながりました。コロナで計画していた行事が中止、十分な活動ができなかったとのことですが、コロナの中で今後どう交流や活動をすすめていくか課題解決に向け模索されています。

【冊子】

【参考書籍を共有】